

満開の桜

長野中学校 3年

橋田 佳織

河内長野市は、素晴らしい街です。住民の皆が利用しやすい新しい図書館（キックス）などがたくさん造られました。緑も自然も、きちんと整備されています。だから、他に何処を良くすればいいのか、と思い、私は河内長野を散歩することにしました。

よく訪れる公園のベンチに座っていた時、顔見知りの小さな男の子がバスケットをしていました。だけど、バスケットボールの行き先は、青空だけで何もありませんでした。

「ゴールがないんだよね。」彼は、静かに首を縦に振りました。他の公園でも、同じ様な光景を何度か見たことがありました。そこで、私は公園を手当り次第見に行きました。だけど、彼らの夢が叶えられる公園が何処にもありませんでした。私は素直に驚きました。

何不自由、不満足なく過ごしていた私だけど、人間一人一人違った感じ方を持っています。だから、この河内長野市を不自由、不満足と思う人もいて当然だとわかりました。けれども、全部が全部という訳には、金面も含めて叶えることは、少し無理があると思いました。でも、大きな施設ばかりが住民の夢を叶えられるわけではない事を私は小さな男の子によって教えられました。

複雑な思いで寝ていた冬の夜、年輩の男性達が「火の用心」という声が聞こえました。私達住民は、物だけによって河内長野が守られているのではなく、人によっても守られているのだなと思いました。

私は、例えとして、このような河内長野を桜の樹として考えました。数多くの花を飾る桜の幹は、どんなに暑くても寒くても嵐が来ても耐えて、毎日頑張ってくれています。太陽の光を浴びて、やがては大きな樹になっていきます。数多くの花は私達住民で、大きな桜の幹は河内長野、

またこの街を支えている人達のことです。その一つずつの花には、喜怒哀楽の表情を持ち、その大きな幹には、果てしない力と思いやりを持っています。でも、花達のために、そこまで頑張る理由があるのと幹に問いかけたら、私はこう答えます。

「笑顔がもっと見たいから。もっと美しい樹になりたいから。」

これこそが、河内長野が目指している未来だと思いました。そして、この樹が在る限り、無限の力を持ち、地平線の果てまでも、天の果てまでも、どこの海よりも深く根強くなれると思います。そうなれるのは、桜全体が団結すれば出来ると思います。そして、いつかは満開桜になれると思います。

この河内長野の必要なモノは、眺めるだけでなく、何か思える心こそが一番大切だと思いました。私が今回見つけた花のつぼみは、身近なものでも、とても美しい笑顔が咲くと知りました。この街で、もっとつぼみを見つけて、笑顔で咲けると信じています。

夢 輝ける街へ

つぼみ 咲け 咲け 舞い上がれ

幹よ 力の泉ぞ

無限の力よ いざ未来へ広がれ

この街 満開桜になれ

もし、一つの満開桜が見えたのなら、限りなくある新芽を満開桜にしよう。未来のために。

新芽よ 未来よ

美しい満開桜に光り輝け

終わり